

2011年度 評議委員会 評価シートコメント

2011年10月
青山学院大学
国際マネジメント研究科

■MBA は職業訓練校であって欲しい。そのためには応募者を大学側のニーズだけでなく、企業を含む外部ニーズをしっかりと捉え、それを取り入れた上で青山の個性を考えて頂きたい：学生、聴講生の区分、提携企業の特定

■英語は基本。ツールとして導入するのであれば **majority** にして欲しい。

■グローバル人材の育成については、現日本の求めている人材スペックを **ABS** 流に取りまとめて欲しい。そのうえで評議したい。

■企業の外部機能に対するニーズは増えています。当社でも **Harvard** などの知見を利用してテーラーメイドのプログラムを造っています。MBA という枠組みにこだわらずこのニーズを取り入れていただきたい。

■就労経験が豊富な学生(主に **Flex-time**)と社会経験のない学生(主に **Full-time**)が同じカリキュラムであることに疑問を感じる。この経験の差をどのようにカリキュラムで埋めているのか？

□ (**ABS** 回答) 同じ科目でも内容を変えている。例えば職場経験のない学生でも疑似体験できるようなケースを作ったり、また **Full-time** の学生の中には **30~50** 代の方もいるので彼らの意見・経験を共有し、企業組織の実態を **20** 代なりに理解してもらう内容にしている。

■在校生の報告において学生の甘え的な感じもあり、厳しくという要望もある事なのでアカデミックな側面で単位認定等の基準の見直しが必要ではないでしょうか。

■EMBA の廃止は非常に残念であるが、研究科の決定を支持します。

■それ以外の各分野では非常にうまく運営がなされていると思い、高く評価いたします。教育の質の確保という点で新しく導入される教員の評価・指導などの仕組みがうまく稼働することを望みます。

■今後のテーマとして卒業生からの要望を効果的に研究科へ伝達することを考えて頂きたいと思っています。

■オープンで素晴らしい会だと思いました。

■グローバル人材化がテーマになりました。ツールとしての英語がまず第一歩だと思います。英語授業の増加等、着々と進めるべきだと考えます。

■卒業基準の TOEIC730 点は低いのでは？

□ (ABS 回答) 設けた段階では 730 点は海外派遣の基準とされていた点数であるが、毎年 TOEIC 留年者がいる。TOEIC に関しては基準点を合格できるように 1 年生の時から計画的に勉強するように、またその計画的な勉強を通し「努力する」ように学生には言っている。英語で講義を行うか、英語科目を増やすかは現在検討中である。

■グローバル人材とは？

□ (ABS 回答) グローバル人材とは「①英語力②異文化を理解 (コミュニケーション能力) ③ビジネス専門知識④マネジメント力・リーダーシップ⑤人間性・徳が備わっている人」だと理解している。現在の ABS において①と②は十分なのか？と考えている。

■高橋研究科長を始めとして先生方のご努力が現在の成長の証となっている事に感謝致しております。総じて前回と比べ改善点が明確になっているように思われます。

■個人によって異なる「グローバル」を入学時に定義し位置付けることが大切。学生は高い専門性を持ちたいという意欲があるので、基礎倫理観と揺るぎない基礎 (メタファーやアナロジーの能力) をつける為の ABS となればそれは ABS の **strong point** になるのでは。
< 3 つの要望 >

- ① カリキュラム改革の深耕を強力に進めていただき ABS の強みをより以上に顕在化することで、ABS の成長シナリオを描いて行って欲しい。
- ② 博士課程等の継続学習と知の継承の対応を推し進めていくことで、より高い次元のビジネススクール機関として機能して行って欲しい。
- ③ 修了生・同窓会への支援を継続することによって「once a teacher, always a teacher」という終身で学べる場の提供を実現して行って欲しい。

■ABS の卒業生として ABS の発展に貢献したいと考えており教員や学生の方にビジネス現場の「鮮度ある現在」をお伝えしていきたいので、講義という枠だけに捉われず「何かの demand」が発生した時は可能な限り対応させていただきたいと思います。どのように還元できますか？

□ (ABS 回答) 例えば講義でゲストスピーカーを呼ぶ際に「テーマをしっかりと話してくれる」「このテーマにおける得意分野はこの人だ」と言った的確な業界人を教えて頂きたい。

□ (ABS 回答) ABS に来る学生は自分の知っている業界以外の人との交流の機会を欲しがっている。ビジネスにおいて不易の部分(変わらない部分・変わってはいけない部分)を、業種を超えて知りたい。

□ (ABS 回答) 企業からの寄附を希望したい。financial resource が足りないため、海外からや招待などの寄附講座にも限界がある。

■ABS の認知度向上のために他大学に比して歴史の長さを背景に年に一度「ABS 修了生、在校生全員」を対象とした半日(ないし終日)のイベントを開催してはどうでしょうか。コンテンツは練る必要があるが、量的な面で社会に訴求することは検討に値するのではないかと感じます。<可視活動の視点>

■教員の方は教員であって産業人ではありません。ビジネススクールの教員と我々産業人は可能であれば月に1回でも交流する機会を持つ事が次代の人材育成へのプラス効果があると考えています。

■「知識」と「実践」の掛け合わせがパワーを生むので、教員と産業人との次世代人材の育成にコラボレーションが必要であり、それを具体的にどうするかは試行しながらでも前に進めていくべきと強く思います。

■教員は卒業生の質を上げることに120%の力を注ぐ事を心に刻む必要があると最後に感じました。ABS の発展を心より祈念しております。貢献出来る事があればサポート致します。

■欧米ビジネススクールにより近いカリキュラムが策定されてきた点は大変素晴らしい。

■“グローバル”“アントレプレナー”“ソーシャル”という新しい3本の柱の中で何をすべきか。ABS は「これだ」というものがより具体的に形をとってこることに期待。

■“ソーシャル”は今後5年程度非常に重要なテーマになると考えますが、企業からの視点を常に念頭に置きビジネススクールにおける“ソーシャル”を検討していただきたい。

■学校の質は学生で決まる部分が多いので(特に卒業後)少しでも意識を鋭く持ってくれれば良いと思っている。ABS に何を求めるかは個人の自由なので夢を持つのは素晴らしいことだと思うが、私の場合は必要な知識を求めた為、現役学生とのスコープの違いが感じられた。

■今後MBA 保持者が一般的になると、更にABS ならではの鋭くしていくことが発展に繋がると感じた。その意味でEMBA 廃止は残念だが一つの特徴の追求の選択ということで理解したいと思っている。従ってtrade-off の充実のアピールが必要と感じる。

■青山学院大学本体の MBA への理解は深くない事は承知しているが、donation によっても国際 MBA 認定へ向けての活動を目指すなど学校の value と noise をあげる工夫はできないものだろうか。これは企業派遣の学生の確保、拡大、再開にも一助となると考えるので、その為にも value の見える化 (ROI) はパワフルだと思う。

■Full-time の学生の構成

- ・15/30 人が留学生 (殆どが中国から)
 - ・残りの 5/15 人が青山学院大学からの進学者
- ここの方針、結果が今後の ABS の価値になるかと思う。

■Flex-time70 名に関して

卒業後どうなっているかに興味がある。卒業後に社会的・企業的・個人的にも merit と value があれば放っておいても donation 付きで学生を送ってくるはずである。事実過去にはそうであったはず。競争相手は他学 MBA ではないように思われる。

■2011 年度に志願者が減少してしまったことは残念であるが、学生を含め様々な関係者の声を聞き、改善していこうとする変わらない姿勢は高く評価できる。

■改善出来る事については迅速に取り入れ実行し、出来ないことも「すべきこと」「するのが望ましいこと」として中長期的な検討課題としてもらいたい。

■英語に関して

・履修者の英語レベルの差による不満の声があるクラスについては入学後に学生の英語レベルを把握する試験を行い、一定レベル以上であれば履修しなくても良いこととするか、現実には講師手配等の関係で難しいかもしれないが幾つかのレベル分けをしたクラスを設ける等の工夫も必要かと思われる。

■カリキュラム改革で「ソーシャル」をキーワードに加えた事は素晴らしい。これからのビジネス、特にグローバルにビジネスを展開していくうえでソーシャルの視点、ソーシャルへの感性は経営におけるリスクマネジメントのうえでも必要不可欠である。

■一般に社会的とされる分野でのビジネスだけでなく、大企業においても既存のビジネスにおいても、社会からの要請に応えるための感受性の向上という意味での「ソーシャル」は非常に重要なので、「ソーシャルビジネス」=「社会起業」と狭くとらえるのではなく、「ビジネスのあらゆる局面にソーシャルの視点を取り入れる」という広い視点でとらえてもらいたい。

■非常に充実した議論が行われ、今後の ABS の成長モデルを検討していくたたき台となったのではないだろうか。以下について今後議論の機会を持ちたい。

- 1) 企業との連携や社会的広報活動を専門に手掛けるマネジメント力の充実が必要
 - 2) カリキュラムの充実や教員側の「質」の向上だけでなく学生側の「質」の向上も必要
 - ・緊張感を与える等
 - 例：毎年 10%落第させる、基礎科目の成績評価を専門科目履修の要件とする
 - 3) 授業カリキュラム間の連携強化
 - ・講師と教授間のカリキュラム会議・意見交換会の設置
- 資金面については個人寄附講座の研究を行ってはいかがだろうか？（税制優遇があれば可能性が高いのでは）

■講師同士の懇親会の場を設けるなどもっと講師間の交流を増やしてほしい。講師同士が話し合うことでより学生の将来のビジネスイメージに沿った授業を組み立てられるだろう。

■講師やマネジメントゲームのお手伝いをさせて頂いているおかげで色々と広報活動・露出を目にしているが、上記のような ABS へのかかわりが無いという視点でチェックしてみると ABS のことについて目にし、耳にするチャンスは皆無である。

■情報発信のターゲティングが入学希望者に置かれているせいかもしれないが、ビジネススクールの評価は企業評価も大きなポジションと考えると、企業マネジメントに対して「ABS の価値訴求」を増やす必要があるのではと考える。

<切り口として>

- ①卒業生のアピール、OB による講演会
- ②卒業生のキャリアアップ支援まで踏み込む
- ③最終的には「ABS に来て楽しかった」より「ABS に来てキャリアが広がり自分の可能性が大きく、より自己実現ができた」という方が大事な評価になるのでは？

■自分の講義では幅広い分野から外部講師をお願いしているが、他のイベント・授業でもお役にたてるのであればお申し付けください。

■非常に難しい環境下、2005 年来の高橋研究科長の ABS 改革の成果が確実に“実り”に繋がっている感を改めて強めた。ABS の新ミッション作りからスタートされた ABS 改革ですが、次の成長に向けて新たな改革の歩を進められようとしている事を推察した。

■特にキーワードに「ソーシャル/Social Business」を追加された事は、今日の求められるグローバルビジネス人材の育成の場として最も重要な側面であると思われます。

今後、これら理念とミッションに併せ、ABS の運営としてやはり具体的なターゲットや数値目標というものも必要ではないでしょうか。それが外部機関による評価なのか、志願者/入学者の数や比率なのか、その点は判断出来ないが、この高尚な理念やミッションが形骸

化したり、感度が鈍化することの無きよう共通の目標として具体的な数値を掲げる事は必要な事だと思われます。

■また研究科長の御説明の中で、「学生」と「教員」を“主たるステークホルダー”として御説明されました。この数年間のABS改革を通じて、また今後のABSの持続的発展を目指す為にも、今まで以上に強化していかなければならないのは、事務局をはじめとする大学運営側の皆様の実力と意欲であると思われます。事務局をも主たるステークホルダーと位置付け、如何に広報活動の強化や業務品質の向上など、事務局の顔の見える改革を期待したいと思います。

■来年は学生のみならず、事務局からの報告機会も持たれては如何でしょうか？

■今回EMBAの廃止という決定をなされていたが、今後ABSとして今まで以上に産業界との交流や関係・ネットワークの強化を図るべきと考えます。日本のビジネススクールの評価は、学生の希望の裏側にある企業・産業界での評判や評価に基づく点も多いかと思います。著名な教員の招聘も良いかと思いますが、独自性に富み信念と現実に基づいた大学院経営の実践は必ず企業間・産業界でも高い評価と評判に繋がると思われます。その点ではABSの産業界への広報活動は未だ脆弱であると言わざるを得ません。企業も今は単なる伝統や過去の実績評判だけで評価する時代ではなく、特徴あるカリキュラムや教員、また教育理念などにて他校との差別化は十分可能かと思われます。特にABSの教育理念・新ミッションに関しては賛同する財界関係者も多いと思われます。但し卒業生や、これまでの指定企業と言った限られた枠組みの中での広がりには期待出来ません。

■産学一体となった次世代トップリーダーを養成する目的で設立されたEMBAに替わるカリキュラム、例えば寄附講座による海外教員の招聘や産学協同でのプロジェクト推進など、企業・産業界を巻き込んだ思い切った取り組みを期待しておいます。それには積極的に学生諸君と大学が一体となり、自ら企業に対して能動的にプロジェクト企画提案を投げかけて行く事が必要ではないかと思います。既に理工系の大学・大学院は産学共同での研究や技術開発を多数推進しておいます。産業界がABSに一目置き、ABSが実業界で話題に挙がる事こそ、学生の人気や志望を増幅させる近道の一つではないでしょうか？

■Transformational learning

・専門職大学院として「学生にどのような変容を起こすか？」をより明確にしていく必要があるのではないだろうか？

■学習の自己認知

・Reflectionによる経験学習の落とし込み（下記サイクル）を学生に習慣化して欲しい。

<①経験（受講した経験）→②内省→③学習の概念化→④能動の実験

⇒①経験（受講した経験）→②内省・・・>

■グローバル人材育成

・TESOL やより効果的な英語教育者を海外から連れてきてても良いのではないのでしょうか。

(バークレーMBAに留学していた友人から向こうの英語教育が素晴らしいと聞いた)

・グローバル体験、海外のMBA学生とのディスカッションやグループワークなどTV会議システムを使って行えないだろうか。MBAは題材が統一だからインターネットで世界のMBA学生と一緒に学習できるのでは？「グローバル体験が出来るよ！」と修了生が声を大きくして発信できる状態をつくることはブランドの維持としても大切であると思う。

■日本企業のグローバル人材教育

出向いての研修講座でもよいので「ABSのグローバル人材育成」というブランド確立を目指してもよいのではないだろうか。

■事務局の課題

ABS事務局のビジョン・ミッションを確立し、ABSのバリューを共有した新しい事務局に生まれ変わるチャレンジをされてはいかがでしょうか。批判の対象となる課題を改善するという視点で取り組むと、前向きな取り組みにはならないと思います。

「明るく楽しく厳しい」でお願いしたいと思います。